各位

2014 年 3 月 17 日
SBI ホールディングス株式会社
SBI ファーマ株式会社
株式会社リプロセル

株式会社リプロセルと SBI ファーマ株式会社の ALA を応用した ES/iPS 細胞関連技術に関する共同研究について

SBI ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役執行役員社長：北尾 吉孝）の子会社で 5-アミノレブリン酸（ALA）（※1）を利用した医薬品、健康食品及び化粧品の研究・開発等を行っている SBI ファーマ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役執行役員 CEO：北尾 吉孝、以下「SBI ファーマ」）と ES/iPS 細胞の研究試薬販売や創薬支援、臨床検査事業を手掛ける株式会社リプロセル（本社：神奈川県横浜市港北区、代表取締役社長：横山 周史、以下「リプロセル」）は、ALA を応用した ES/iPS 細胞関連技術に関する共同研究契約を締結いたしましたのでお知らせいたします。

今回の共同研究契約の締結により、SBI ファーマの持つ ALA の細胞活性化能を利用する技術とリプロセルの持つ ES/iPS 細胞技術を融合し、ES/iPS 細胞の培養と分化誘導（※2）を効率化することで、リプロセルの iPS 細胞事業を飛躍的に加速化・効率化できるものと期待しています。SBI ファーマにとっては ALA の新たな応用分野の開拓が期待でき、本共同研究は両社にとって大きな意義を持つものです。

SBI ファーマとリプロセルは、今回の共同研究契約の締結を通して、一層の医療の発展に貢献をしていきたいと考えております。

【株式会社リプロセルについて】

リプロセルは、2009 年に世界で初めてヒト iPS 細胞を用いた創薬支援事業を開始した、ES/iPS 細胞ビジネスの先駆者であり、現在、ES/iPS 細胞に関する世界最先端の研究成果を、研究試薬、創薬支援、テーラーメイド医療、臨床検査など広く利用できる形で事業化しております。「万能細胞」と呼ばれる ES 細胞/iPS 細胞の培養に、同社製品が有効であることが示されていることから、世界的にヒト ES/iPS 細胞の研究が進んでいる中で同社のビジネスも順調に拡大し、今後は再生医療やテーラーメイド医療などの次世代医療の発展への貢献も期待されています。

【SBI ファーマ株式会社について】

SBI ファーマは、国内では既に ALA を利用した悪性神経膠腫の経口体内診断薬「アラグリオ」を販売しているほか、国内外の様々な大学や医療機関等と共同で ALA を利用した創薬開発や臨床研究を進めております。

（※1）5-アミノレブリン酸（ALA）とは：体内のミトコンドリアで作られるアミノ酸。ヘムやシトクロムと呼ばれるエネルギー生産に関与するタンパク質の原料となる重要な物質ですが、加齢に伴い生産性が低下することが知られています。ALA は、焼酎粕や赤

ワイン、かいわれ大根等の食品にも含まれるほか、植物の葉緑体原料としても知られています。

(※2)分化誘導とは:ES/iPS 細胞に適切な刺激を与え、臓器を構成する細胞など特定の機能を持つ細胞に再び変化させること。ES/iPS 細胞を用いた再生医療の根幹となる技術で、分化誘導の効率が ES/iPS 細胞利用の効率を左右します。また、分化した細胞に未分化の ES/iPS 細胞が混入することの危険性も指摘されています。

以上

＊＊

本プレスリリースに関するお問い合わせ先:

SBI ホールディングス株式会社　コーポレート・コミュニケーション部　03-6229-0126

SBI ファーマ株式会社　経営企画部　03-6229-0095

株式会社リプロセル　経営管理部　045-475-3887